

“传述遗华日本人等的体验和苦难经历的战后世代的讲述人”活动启动了！

「中国残留邦人等の体験と労苦を語り継ぐ戦後世代の語り部」が誕生しました！

去年，是 1945 年第二次世界大战结束 75 周年。

遗留孤儿们当中战争结束前后出生的人如今也都已经步入了 75 岁以上的年龄段。而那时刚开始懂事，年龄在 5、6 岁以上，当时的状况还能模模糊糊地有些记忆的人，也都已经是 80 岁以上的高龄了。此外，那些在日本出生长大，对移居满洲的情景、苏联参战后的混乱和逃亡、以及那之后的中国社会的变化，所有这些经历都保留在记忆中的遗华妇女等的人们，其年龄也都已经超过了 90 岁。

在请这些遗留日本人本人来讲述当时的经历已经变得越来越难的情况下，首都圈中国归国者支援・交流中心接受厚生劳动省的委托，从 2016 年度起，开始了培养“传述遗华日本人等的体验和苦难经历的战后世代的讲述人”的培训工作。

现在，结束了为期三年培训的 7 名第一期生，已经开始了讲述人的讲演活动。此外，6 名完成了培训的第二期生，也开始了讲演活动的准备工作。报名参加培训班的人里也包括了归国者的第二、三代，不过大部分报名者都是与归国者没有什么血缘关系，是出于对这项活动很感兴趣而踊跃参加的人。

讲述人的培训，主要是以中国、库页岛（萨哈林）的归国者为对象，听取他们不得被遗留下来的经过、在中国或是库页岛的生活、想返回日本的心境以及返回的历程、回到日本后经历的苦难等等的体验。与此同时，培训班的成员们还参加了由专家们讲授的有关历史背景的课程，并到开拓团的慰灵碑、与遗留日本人有关联的场所去访问，听取相关的经过和由来。此外，他们还听取了

昨年^{さくねん}は第二次世界大戦^{だいにじせかいたいせん}の終結^{しゅうけつ}した 1945 年^{ねん}から 75 年^{とし}の年^{とし}でした。

残留^{こじ}孤儿^{みな}の皆さん^{しゅうせんぜんご}も、終戦^う前後^{かた}に生まれ^{いま}た方は今や 70 代^{だいごうはん}後半^{ものごころ}となり、物心^{とうじ}が^{きあく}ついて当時の記憶^{きおく}がかすかに残^{のこ}っているであろう当時^{とうじ} 5、6 歳^{さいいじょう}以上^{いじょう}の方は、80 歳^{さい}以上^{いじょう}。さらに、日本^{にほん}で生まれ^{そだ}育^{まん}ち、満洲^{まんしゅう}の地^ちへ渡^{わた}ったことも、ソ連^{れん}参戦^{さんせん}後の混乱^{こんらん}や逃^{とう}避^ひ行^{こう}、その後^ごの中国^{ちゅうごく}の社会^{しゃかい}の变化^{へんか}もすべて記憶^{きおく}にある残留^{ざいりゅう}婦人^{ふじん}等の方^{かた}々は、90 歳^{ねんれい}を超える年^{ねん}齢^{れい}となっています。

残留^{ざいりゅう}邦人^{ほんにん}ご本人^{たいげん}に体験^{たいけん}をお話^{おはな}しいただくのも、なかなか^{なかな}難^{がた}しくなってきた状^{じょう}況^{きょう}の中^{なか}、首都^{しゅと}圏^{けん}中国^{ちゅうごく}帰国^{きこく}者^{しゃ}支援^{しえん}・交^{こう}流^{りゅう}センタ^{せんた}ーでは厚生^{こうせい}労働^{ろうどう}省^{しょう}の委^い託^{たく}をうけ、2016 年度^{ねんど}より「中国^{ちゅうごく}残留^{ざいりゅう}邦人^{ほんにん}等の体験^{たいけん}と労^{らう}苦^くを語り^{かたがた}継^つぐ戦^{せん}後^ご世代^{せだい}の語り^{かた}部^ぶ」を育成^{いくせい}する研^{けん}修^{しゅう}を始め^{はじめ}ました。

現在^{げんざい} 3 年^{ねん}間^{かん}の研^{けん}修^{しゅう}を終^おえた 1 期^{いっき}生^{せい}

7 名^なが、「語り部^{かたがた}」講^{こう}話^わ活^{かつ}動^{どう}を始め^{はじめ}ています。さらに、2 期^{じゅうり}生^{りょう} 6 名^なが研^{けん}修^{しゅう}を修^{しゅう}了^{りょう}し、講^{こう}話^わ活^{かつ}動^{どう}への準^{じゅん}備^び中^{ちゅう}です。語り部^{かたがた}に応募^{おうぼ}してくれ^{なか}た人^{ひと}の中^{なか}には、帰^{きこく}国^{こく}者^{しゃ}二三^{せい}世^{せい}も含ま^{ふく}れますが、大^{たい}半^{はん}は帰^{きこく}国^{こく}者^{しゃ}と血^{けつ}縁^{えん}はな^ないながら、この活^{かつ}動^{どう}に関^{かん}心^{しん}をも^とって飛^とび込^こんでくれ^{くれ}た人^{ひと}です。

語り部^{かたがた}研^{けん}修^{しゅう}は、主^{おも}に中国^{ちゅうごく}や樺^{から}太^{びと}（サハリン）帰^{きこく}国^{こく}者^{しゃ}がら、残留^{ざいりゅう}を余^よ儀^ぎなくされ^{けい}た経^{けい}緯^いや、中国^{ちゅうごく}や樺^{から}太^{びと}での生^{せい}活^{かつ}、日本^{にほん}に帰^{かえ}るに^{いた}至^{しん}った心^{しん}境^{きょう}や経^{けい}緯^い、日本^{にほん}に帰^{かえ}ってからの苦^{くる}労^{らう}などの体^{たい}験^{けん}を聞^きき取^とることを中^{ちゅう}心^{しん}に行^{おこな}われ^れました。また並^{へい}行^{こう}して専^{せん}門^{もん}家^かから歴^{れき}史^し的^{てき}背^{はい}景^{けい}の講^{こう}義^ぎを受^うけたり、実^{じつ}際^{さい}に開^{かい}拓^{たく}団^{だん}の慰^い霊^{れい}碑^ひや残留^{ざいりゅう}邦人^{ほんにん}にゆかりのある場^ば所^{しょ}を訪^{たず}ね、お話^{はなし}を聞^きいたりもしました。また広^{ひろ}島^{しま}や長^{なが}崎^{さき}の被^ひ爆^{ばく}者^{しゃ}の体^{たい}験^{けん}を語り^{かたがた}継^ついでいる戦^{せん}後^ご世代^{せだい}の方^{かた}の語り^{かたがた}を聞^きき、同^{どう}じ戦^{せん}争^{しゅう}体^{たい}験^{けん}を伝^{でん}承^{しょう}する



传述广岛、长崎被爆者的体验的战后世代的讲演，同样是作为传述战争体验的传承人，去聆听他们参加这项活动的心理准备，也接受一些有关演讲技巧的经验和建议等。此外，为了把这段历史更好地传述给不太了解遗留日本人的问题的年轻一代，讲述人们在撰写手稿时，尽量使内容通俗易懂。

2020年9月5日，在东京代代木的奥林匹克中心举办的“加深对遗华日本人等的理解的集会 在东京”中，6名第一期生各自发表了演讲。奇缘巧合的是，这个会场竟曾是访日寻找亲人调查的场所。

有讲述作为遗留妇女的自己祖母的经历、也有讲述作为遗留孤儿的自己父亲或是母亲的经历的归国者第二、三代的讲述人；还有讲述一位遗留孤儿经历的讲述人。讲的是：一位遗留孤儿在苏联参战的当时还只有7岁，看着全家人死在自己的面前，只有自己一个人逃了出来。后来得到“救命恩人”的相助，从战争结束后的混乱中、以及后来中国社会的变动中艰辛地活下来的经历。

看起来，凝结了三年的培训成果的演讲，给听众们的心里带来了极大的震动。

听过讲述人演讲的听众给我们写来了以下的感想。

“原来以为不是亲身体验者讲述就难以使听者体会到那份感受，但是他们讲得真好，听起来感同身受。”“在聆听遗华日本人等的体验和经历的同时，也深切感受到了讲述人们努力要把这些人的经历传述下去的意志。”

为了不使中国、库页岛遗留日本人的经历因风化而被忘却，首都圈中心将会再接再厉地为进一步充实讲述人材的培训、举办演讲会活动继续努力。(Y)

ものとしてその心構えを聞いたり、話法技術のアドバ
イス等も受けたりしました。そして残留邦人問題をよ
く知らない若い世代にも伝わるように、わかりやすい
原稿を作成することを心掛けました。

2020年9月5日に東京代々木のオリンピックセン
ターで行われた「中国残留邦人等への理解を深める集
いin東京」では、1期生6名がそれぞれの語りを披露し
ました。この会場は奇しくも訪日肉親捜し調査の
場所でした。

残留婦人である自身の祖母の体験や、残留孤児である
父や母の体験を語った帰国者2世、3世の語り部。また
ソ連参戦時、7歳の時、目の前で家族の命を奪われ、
たった一人の逃避行となり、「命の恩人」に助けられ
ながら戦後の混乱や中国社会を生き抜いた残留孤児の
体験を語った語り部もいました。

3年間の研修の成果を結集した語りは、聴衆の
胸に大いに響くものがあったようです。

語り部の語りを聞いた方々からは次のような感想が
寄せられました。

「体験者でないと伝わらないと思っていたが、十分伝
わってきた」「この話を伝えていかなければ、という
語り部の意思も同時に伝わってきた」

首都圏センターでも、中国・樺太残留邦人の方々の体
験が風化し忘れ去られることがないよう、引き続き語
り部育成のための研修の充実や講話会の開催に
尽力していくつもりです。(Y)

